

こなとこに



1、富士山のように強く正しくきまりを守り平和で安全な社会をつくります

平和を願いみんなで合唱



△元気に歌いました

11月9日、核兵器廃絶平和都市宣言4周年を記念して「合唱と演劇の夕べ」が吉原市民会館で行われました。舞台上で熱い拍手を受けたのは、富士象列車合唱団の皆さん。今回のために市民の皆さんで自主的に組織され、団員は「合唱は初めて」というお父さんやお母さん・子供たちの計64人。夜や休日を中心に、20回を超える練習を行いました。

歌は戦争中、次々と殺された動物園の動物たちの中で、たった2頭だけ命が守られた象の話。戦後、子供たちが象を見るために、特別仕立ての象列車に乗っていくという内容です。子供たちの元気のよい歌声が、象を見に行く弾んだ気持ちを上手に表現していました。平和って、やっぱりいいですね。

ふるさとの昔話



△話してくれた皆さん



塔の木の子育て地蔵さん

富士駅北地区の塔の木に高さ七十センチぐらいの六面地蔵があります。今回はこの子育て地蔵さんの話を区長の井出甚作さんを初め地元の方々に伺いました。

流れ着いた地蔵さん

昔々のことです。塔の木の川にお地蔵さんが流れ着きました。お地蔵さんは、この辺ではあまり見られない六つの顔と体を持つ六面地蔵でした。拾い上げた村人は「これは靈験あらたかに違いない」と、田んぼの土手に立て、子育て地蔵として村で大切に祭りしました。

みんなでほこらを建設

時は過ぎ、昭和の初めころのことです。村の大地主のおばあさんの夢まくらに子育て地蔵があらわれました。そして「大事にしてもらつてありがたいが、長いこと風雨にさらされたままでいる。屋根をつけてはもらえないだろうか」と言いました。おばあさんは目覚めると、早速近所の人たちと相談し、ほこらを建てることにしました。とは言っても、その費用がありません。

今でも大切に

村人たちは相談をし、たまたまその当時、御詠歌を習っている人が多かったので、御詠歌を歌いながら寄付を集めることになりました。人々は村中総出で、富士や田子の浦の方まで行き、数年後やっとほこらができました。そして現在に至るまで、塔の木の人々は「子供がすくすく育ちますように」と信仰を続けています。



△子育て地蔵さん

明治二十二年（一八九九）までは、前田村と呼んでいました。潤井川の前にある村だからと言いますが、古い時代には「ほとけはら」と言っていました。これは戦国ころ北條氏直が、付近の土中から観音像を発見したからと言われます。一説では、昔ここに法寿寺というお寺があつて、その跡に五輪塔などが残っていたからだとされます。土地の人々はそのことを嫌って前田と改めたと言われています。



まえ 田 (田子浦地区)

地名の由来

こちら編集室

使うのに戸惑いのあつた平成の年号も、いつしか慣れて当たり前になり、激動の年も残りわずか。皆さんにとって、この一年いかがだったでしょうか。編集室も、ことし最後の広報ふじの発行になんとかこぎつけました。十二月二十日号と一月五日号は合併し、元旦号として発行させていただきます。それではよいお年を。